

流鏑馬馬場

250メートルもの流鏑馬馬場が、鶴岡八幡宮の境内の中央近くで本殿につながる参道に垂直に交わっています。流鏑馬は毎年奉納され、多くの拝観者が集まります。流鏑馬は古代より伝わる伝統で、儀式的な装束を身にまとった射手が、馬場の東端から西端まで全速力で馬を駆けながら、馬場に沿って設置された3つの的を弓矢で狙います。流鏑馬の儀式は、もとは武士の守り神であった八幡大神に奉納されたもので、的は馬場の南側に設置されます。これは、流鏑馬神事が神様に見て貰う為の神事であり、神様に矢を向けないとした考えに基づいています。

騎射はもともと、純然たる武術であり、中世の日本では戦場で大変役立つ技でした。しかし次第に、神社や京都御所で行われる儀式に変化しました。鶴岡八幡宮では、この神社を創建した鎌倉幕府初代将軍の源頼朝（1147-1199）の命令で、1187年に初めて流鏑馬が奉納されました。頼朝は自身に仕える武士に弓道の訓練をさせました。

その伝統を受け継ぐ小笠原流は、9月16日の格式高い神事において、流鏑馬を奉納します。流鏑馬の奉納は4月の鎌倉まつりでも行われます。その際には、別の流派である武田流が担当します。